

分野(3)

ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

研究課題名：ぜん息患者及び未発症成人における気道炎症病態と
種々の要因とくに大気汚染との関連に関する調査研究

調査研究代表者氏名：滝澤 始

評価コメント

- ・現在のように大気汚染の環境基準が厳しく設定されていると、人体に及ぼす影響に差が出るほど大気汚染の程度に地域によって差があるか否かは分からない。このような条件下では大変難しい疫学的研究であるが、これまで地道に基礎研究を重ねてきた研究成果の集大成として今回の研究テーマに挑んでもらいたい。成功すれば非常に有意義な、当機構の趣旨にも沿った優れた研究となろう。
- ・有意義な研究であり、それなりの成果が得られている。
- ・EBCのpH測定は興味深い。更なる検討を願いたい。
- ・大気汚染が健康に及ぼす影響を、ぜん息発症とぜん息増悪の視点から解明する有意義な研究である。汚染地区、非汚染地区の健康被害実態の相違が、科学的根拠を持って示されることに期待する。
- ・呼気濃縮液(EBC)の気道炎症評価における有用性の検討を着実に進めている。EBCのpHが低下することと大気汚染暴露との関連性はさらに検索が必要。
- ・VEGF/HGFなどと同様に症例を増やして検討を要する。
- ・対象患者については、昼間も大気測定局近くに生活の基盤がある成人に限定をして解析してはどうか。
- ・今後、DEP暴露試験前後のEBCの変化(HGF等)が動物実験で見られるかなど発展性がある。しかし、まだ、対象数が少なく、また異なった切り口の研究方法も考えられ、今後のデータの蓄積が期待される。論文化はなされている。
- ・動物実験から得られた成果を実際の患者に摘要し、その是非を見ようと思うもので、重要な成果が期待できる。さらに症例を増やして、研究を進めてほしい。